



新板
 入
 唐土真話
 五

~ 13
 3200
 五上



13
3200
5

唐士真話卷之五

目録

持齋の僧 施田と鬻て承と生ずる傍の事

施田と鬻 ぐむと乃 善 根

姑 澁ふく果と現世の悪業

王貴徳言に死しく其然紙報へば

張氏謹と信ト程系 賄よ 惑よ

出 鬼出 祝と大佛 寺乃 裏

馮益都が義心王の勅が疏となする事

揚密が忠義ハ亡名の疏と保

公李が孝の先考乃靈紙 享

十月一日 庚申

尾山

持齋の僧 施田と鬻て承と生ずる傍の事

姑 澁ふく果と現世の悪業

王貴徳言に死しく其然紙報へば

張氏謹と信ト程系 賄よ 惑よ

出 鬼出 祝と大佛 寺乃 裏

馮益都が義心王の勅が疏となする事

揚密が忠義ハ亡名の疏と保

公李が孝の先考乃靈紙 享

持齋の僧 施田と鬻て承と生ずる傍の事

姑 澁ふく果と現世の悪業

王貴徳言に死しく其然紙報へば

張氏謹と信ト程系 賄よ 惑よ

出 鬼出 祝と大佛 寺乃 裏

橋を渡りし者候と
 建立せられたる功ぞ
 へし我るに自かよひ
 ごとく人と導き是者
 こそくぬがきまき人
 心と破るまよひま
 是をよめぬ肥力
 かなとけりまうと
 我身うつとまう
 貴時をうけし遠
 の人後しよとまう



此の傍
 所通乃
 此の
 あり
 なる

難しき事ぞんぞんす
 すまらぬとて
 本まてふとまて
 してきて
 ていざ
 めて
 その
 ねのち
 こゝろ
 のま
 きた

そらみぢに身をたのむるにわづらひたること
いふはなかりとていふべきことなりけり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり

一

はるかにありてはるかにありてはるかにありて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり
さうけしむるにまじはるべからずとて
あはれみたまはるべしといふことなり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a date: 次治十六年 (Shōji 16th year). The text is organized into several lines, with some characters written in smaller, more compact forms. There are several instances of the character '子' (child) and '孫' (grandchild) written in a smaller font, possibly indicating a lineage or a specific family reference. The text ends with a signature or name: 今柳 (Imayashi).

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a date: 次治十六年 (Shōji 16th year). The text is organized into several lines, with some characters written in smaller, more compact forms. There are several instances of the character '子' (child) and '孫' (grandchild) written in a smaller font, possibly indicating a lineage or a specific family reference. The text ends with a signature or name: 今柳 (Imayashi).

王昭新とら子人我乃
 為よこしはまに
 なる系僕陽客
 云有る人の妻は
 孕胎の方と命よ
 かけて助け迎ふ
 なるまで喜ぶ者
 乃と介抱し昭新
 此れ子と名のま
 細るるとそと
 世に出ちしは



王昭新とら子人我乃
 為よこしはまに
 なる系僕陽客
 云有る人の妻は
 孕胎の方と命よ
 かけて助け迎ふ
 なるまで喜ぶ者
 乃と介抱し昭新
 此れ子と名のま
 細るるとそと
 世に出ちしは

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the left page. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a consistent, flowing style.

一 後列校記

全部五冊

Vertical text on the left margin, possibly a preface or a note related to the main text. It includes some characters that are partially obscured or written in a smaller hand.

一 万物天地鏡

後入 全部五冊

世よ小の鏡 善悪を映し出すものなりし門後をたゞしめしやるはしく
天界と地界の間の鏡にひいて見加するなり 善悪を映し出すものなり
宮後にもよりなるものなり

二 女歌討実録

後入 全部五冊

おつたてて女のみもまのまをいさかき育くくはるるもあはく
とるもあはくうはる号して流りしをいさくすもあはくまのあは
かゝるるなりし宮後討実録なるものなり

定榮堂新版當世讀本目錄

最明奇殺諸國物語

全五冊

附 最明奇殺諸國物語の物語を字法に
述べて後述するものなり

西海奇談

全五冊

附 西海奇談の物語を字法に
述べて後述するものなり

名槌古今説

全五冊

附 名槌古今説の物語を字法に
述べて後述するものなり

傾城戦國策

全五冊

附 傾城戦國策の物語を字法に
述べて後述するものなり

辨説叩次第

全五冊

附 辨説叩次第の物語を字法に
述べて後述するものなり

天神利生記

全五冊

附 天神利生記の物語を字法に
述べて後述するものなり

附 文と賢と興と喜とるまの彌生
おておつるもの人乃をけりて

歌討は四物語 全五冊

附 智と愚と男と女と合てもつる水
邊を遊むもの歌をうらたて

附 天地を定る一冊 常世の世話

名玉天地説 全五冊

附 清少納言の枕草紙のまじりて
當世の事と

雲水園雜纂 全五冊

面白くおもしろくおもしろく
おもしろく

附 化物の四方古方と用ひて
紀傳は古今を化して

近代百物語 全五冊

附 女物の歌方新かて用ひて
紀傳は古今を化して

附 怪談の歌方新かて用ひて
紀傳は古今を化して

新撰百物語 全五冊

附 怪談の歌方新かて用ひて
紀傳は古今を化して

附 怪談の歌方新かて用ひて
紀傳は古今を化して

叫子星新語 全五冊

面白くおもしろくおもしろく
おもしろく

繪本野山聲 上 日
女の子れを教ふなりとす 二冊

繪本鏡子山 上 日
おもしろいのでとるなりとす 二冊

繪本同出彦 上 日
繪本公地徳和 一冊

東國名勝志 全五冊
景よりおもしろくするの同
名不古の絵本 五冊

本朝画林 全五冊
景のうらやう人おもしろくする
景のうらやうの絵本 五冊

繪本徳味茶 二冊
繪本美女花 二冊

繪本武者寶 三冊
繪本春月 一冊
繪本花月 三冊

絵本菊水 二冊
絵本人物誌 一冊

名板和歌選 一冊
一月玉 一冊

繪本娘文庫 一冊
源氏和歌の威徳物語 五冊
百将傳 林道春 一冊

繪本名將文武談 本考後 繪本武者大全 名考武者

鯨誌 くじらの巻をこく 菊品 きくのかく

女歌書大全 百人一首 紅葉香 あざみ

女文苑采花 ちりしき 花の枝折 はなのえだをり

安永三甲午年正月吉日

大坂書肆 吉文字屋市兵衛

江戸書林 次郎兵衛

同

定榮堂藏板目錄

雲水閣雜纂

和漢人相故事

武士形氣

續可笑記

滑稽有雌黃

岩躑躅

通俗金魁傳

西播州談笑記

新撰百物語

人坂心齋橋南四丁目 吉文字屋市兵衛

江戸日本橋南三丁目 同

雲水閣雜纂 人の談を多録入全部五冊

和漢人相故事 漢倭玉の面白き 咄をあり録入四冊

武士形氣 本及の義理うき 咄一録入五冊

續可笑記 後入 浮世お話 後入 赤染糸の續草 後入

滑稽有雌黃 梅子の意味とるの 咄をあり録入四冊

岩躑躅 男色の咄 義経記 後入 軽口千代万歳 後入

通俗金魁傳 書の小説とやうに 全部八冊

西播州談笑記 ありまゝの咄 武家拾要記 本家の故事

新撰百物語 遊代あや 狂に園 後入

